

## これから続く暑い夏

熊本は「夏が暑くて冬は寒い」と言われています。最近の統計でも、8月の平年の最高気温を見てみると、「熊本市 33.3度」「宮崎市 31.6度」「鹿児島市 32.7度」で、熊本より南にある宮崎や鹿児島を抑えて、熊本市の方が高くなっています。そして2月の平年の最低気温を見ると、「福岡市 4.4度」「大分市 3.0度」「熊本市 2.6度」で、熊本より北にある福岡や大分よりも熊本市の方が低くなっています。この気温からも九州の中でも熊本市は「夏は暑くて、冬は寒い」ということになります。これは、熊本平野の西側に金峰山があり、東から北東にかけて阿蘇山があることで盆地的な気候になっているからだと言われています。この内陸型の気候ですが、夏場は、35℃を越すこともしばしばで、夕刻には「肥後の夕凧」と呼ばれる無風状態となるために非常に蒸暑い気候となっています。

気候変動による影響で、今後も暑さが激甚化する恐れがあります。その中でも熱中症は、命にかかわる危険な症状ですので、台風や大雨などの気象災害と同じように、熱中症に対しても防災意識を高めていくことが今まで以上に必要となります。



## 脱化石燃料へ

地球温暖化の要因の一つとして、二酸化炭素の排出が挙げられます。そのため、2015年に「パリ協定」が採択され、世界各国では地球温暖化・気候変動への対策が活発化しています。石炭・石油は二酸化炭素を排出する化石燃料とされていますが、世界各国は、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーへと転換を図っています。この世界の国がどれだけ化石燃料から再生可能エネルギーに転換できているかの世界ランキングを世界経済フォーラム(WEF)が発表しました。日本は、120カ国中26位でした。上位10カ国は、ヨーロッパが占めており、日本は低い順位となっています。「パリ協定」は、20年以降の温室ガスの排出削減・抑制目標を作り、実行しています。しかし、WEFは、目標達成の道のりから外れていると指摘しています。再生可能エネルギーからは、二酸化炭素は基本的に排出されません。使っても減る心配もないので、化石エネルギーに代わるエネルギーとして転換が急がれています。



## 今日は何の日？

今日、7月9日は「泣く日」です。「泣く日」は「全米感涙協会」という日本の団体によって制定されました。「泣くことで喜怒哀楽の感情表現の豊かさについて改めて考える日」としています。協会名は、映画のCMなどでよく使われる「全米が泣いた」というコピーからきているそうです。進化論的な観点から「泣く」動物は、人間だけなのですが、「泣く」ことは、他者の心に共感や同情をもたらし、その結果、人のつながりを促進させ、人間にとって大切な行為だと言われています。